

第 4 回 上越市新幹線駅周辺地区まちなみ検討会議

これまでの検討経緯と今後の予定

平成 21 年 12 月 21 日

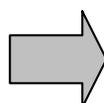
上 越 市

これまでの検討経緯と今後の予定

1. 第1回会議 ...事業概要説明、自由な意見交換

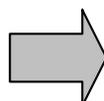
2. 第2回会議 ...まちづくりビジョン、まちなみ形成方針

ビジョンは「100年まちづくり」
まちなみ形成方針は「自然と人が結ばれて生まれた生活や歴史を新しいまちなみに織り込み、次代へと継承すべき“まちなみ”の創造」
まちなみ整備のイメージは、西口“静”、東口“動”を提案

 まちなみ会議で了承

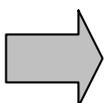
3. 第3回会議 ...個別施設の機能とデザインの検討(1)

東口は「広さを生かした機能の整備」、西口は眺望を生かした2階自由通路の視点を重視する整備」を提案
広場を“使う空間”、“魅せる空間”として整備した事例を紹介
また、デザインとして「未来志向」「文化志向」「自然志向」を提案

 「機能（使う）」と「地域らしさ（魅せる）」を両立すべきとの意見

4. 第4回会議 ...個別施設の機能とデザインの検討(2)（今回）

「機能」と「地域らしさ」を調和させた広場空間の検討
（広場レイアウトと公園利用の検討）

 今回の検討

5. 第5回会議 ...個別施設の機能とデザインの検討(3)（来年3月上旬頃）

（デザインの検討）

（以下、開催時期未定） 検討内容は予定

6. 第6回会議 ...駅舎デザインの提案、エキナカ施設の検討

7. 第7回会議 ...駅舎デザインの決定、全体調和の検証(1)

8. 第8回会議 ...全体調和の検証(2)、最終報告書の確認（最終）

第3回会議で出された意見とその対応

項目	委員からのご意見とその対応
積雪対策	<p>積雪対策はどのような予定になっているか。</p> <p>様々な工法があるため検討中です。まちなみ会議の検討と合わせ、引き続き施設管理者と協議していきます。</p>
自由通路からの階段形状	<p>東口の階段やエレベーターが駅前広場内となっているが、これを新幹線1階に納めることができれば新幹線の下で空間で雨や雪を凌ぐことができる。また、商業空間としても可能性が広がる。</p> <p>すでにお知らせしたとおり、鉄道・運輸機構との協議の結果、駅構内に階段を設置することはできませんが、駅から大きな屋根を張り出してかけ、雨や雪に濡れずに乗降できるよう工夫します。</p>
<p>広場</p> <p>シェルターのかけ方 (乗降場の屋根)</p>	<p>上越らしさとして雪のことを考えるべき。</p> <p>駅広ロータリーからバス・タクシー乗降場に屋根を配置して欲しい。都心から来る方は長靴では来ない。ロータリー全部は無理としても、タクシーの乗降場所くらいは屋根で覆うことができると、「上越らしいおもてなし」ができるのではないかな。</p> <p>冬期に靴で訪れても濡れずに移動できるような空間が欲しい。ここはもともと雪の多い地域であり、積雪への対応を重視して欲しい。駅とシェルターを結ぶような施設があるとよいのではないかな。</p> <p>他の駅では雨が横から降ってくるような状況であり、単に屋根が繋がっているというだけでなく、このような点も考慮して欲しい。本当は、広場全体に屋根がかけられればよいのだが。</p> <p>(雪を考慮し) 駅から繋がるように屋根をかけ、そこに車が寄りつくようにしてはどうか。高架下を車が全て進入できる空間とするか、駅の直前で乗降できれば、利便性の高い空間となる。</p> <p>上越らしさという意味で雁木との意見があったが、屋根は冬は雨雪よけ、夏は日よけで重宝し非常に大事。大スケールの広場と、雁木という小さいスケールを上手に組み合わせられないかな。</p> <p>雁木風に行くか、未来的な整備イメージでいくか、いずれにしても屋根の機能(かけ方)が雪国らしさにつながる。</p> <p>東西ともに雁木の機能を取り入れ、人の歩く動線上には雪の吹き込みに対応できる屋根をかけ、雨や雪に濡れずに乗降・歩行できるように工夫します。</p> <p>東口は今回、デザインとしても雁木を取り入れる提案をしています。</p>

	<p>シェルターのデザイン (乗降場の屋根)</p>	<p>屋根のデザインは上越らしく、『雁木』のイメージとして欲しい。 雁木のまちなみを地域の特徴として残して欲しい。 シェルターも雁木風のイメージが良い。 今回、東口の主役と「雁木」と設定し、駅前面のシェルターに雁木のイメージを取り入れる提案を行っています。 シェルターなどの具体的なデザインは、次回、検討します。</p>
<p>広場 (続き)</p>	<p>周辺の土地利用との関係</p>	<p>広場との一体感を持たせた方が良い。動線が建物沿いに来るのであれば、隣接する商業地の方にも協力してもらえればより良くなる。このときに市の制度を利用して商業地側にも助成ができれば、現実味が高くなる。 街区公園については、周辺に商業施設が建ち、そこにどのように行くか、どのように見えるか、というように、まわりとの繋がりを重視すべき。 今回の会議では、駅周辺の公共空間を検討対象としています。 広場周辺は民有地となりますので、次回の会議に向けて地権者の皆さんと話し合いを進めていきたいと考えています。</p>
<p>公園</p>	<p>機能</p>	<p>(東西の公園ともに)地元住民の方々の通勤・通学路として安全で利便性を考慮した設計にして欲しい。 地域の人に不便な駅では困るが、外から来る人にとってこそ使いやすい駅とするべき。西口の公園についても、誰に見せるか、誰が喜ぶかということを考える必要がある。妙高山は他地域の方が来られた時に喜ぶ。外部の人に「また来たい」と思ってもらえるような、ホスピタリティが感じられるものにして欲しい。 雪は地域を代表するものであり、かえって売りになる。雪を美しく見せたり、楽しめるようにできないか。 いろいろなものを盛り込むよりは、桜なら桜を見せる、というように、すっきりとさせたほうが良い。また管理しやすさも含めて考える必要がある。 観光客に目を向け、思い切って春日山城を再現するなど考えられる。広場は樹木だけということでは無いと思う。 今回、東西の公園ともに多目的なイベントスペースと考えました。 西口は、回遊性あるイベント開催が可能であり、同時に「桜の森」として公園の機能を有します。 東口は、大規模なイベントの開催が可能であり、同時に降雪時の通路(雁木)の機能も果たします。 詳細は資料を参照ください。</p>

シンボルロード		<p>釜蓋遺跡公園の入口に「ガイダンス施設」として建物が建つ予定とのことだが、全てが建物になるのは好ましくない。緑地的な所も取り入れ、連携が図れるようにして欲しい。</p> <p>西口広場・街区公園の「桜の森」が釜蓋遺跡までつながるよう、西口のシンボルロードを「桜回廊」(桜の動線)としました。</p> <p>また、釜蓋遺跡(ガイダンス施設予定地)の入口は、広場とのつながりをもたせるため、今回、壁・門や植栽などにより半円形の形状となるよう提案しています。</p>
駐車場		<p>高架下で駐車場利用ができるようにして欲しい。出張等で2～3日止めておくと雪が積もってしまう。</p> <p>東口は高架下が利用できる可能性があることから、屋根はかけていません。西口は在来線と隣接するため高架下が使えないことから、屋根をかけるか立体駐車場を今回は提案しています。</p>